

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の
被ばく線量の評価状況について

2022年2月28日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

当社は、福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の被ばく線量について、「外部被ばく線量」、「内部被ばく線量」に分けて評価し、厚生労働省に定期的に報告しています。

本日、2022年1月末までの被ばく線量評価値について、厚生労働省へ報告しましたのでお知らせします。

1月に放射線業務に従事した作業者の被ばく線量評価

- ・外部被ばく線量の最大値：10.28 mSv/月
- ・内部被ばく線量：有意な値は確認されておりません

以 上

<添付資料>

- ・被ばく線量の分布等について

被ばく線量の分布等について

1. 外部被ばくによる実効線量

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の過去3ヶ月の外部被ばく線量分布（各月別の全入域者数）を表1に示す。

表1 外部被ばく線量

区分(mSv)	R3.11月			R3.12月			R4.1月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5超え～10以下	0	22	22	0	27	27	0	46	46
1超え～5以下	9	534	543	34	524	558	17	653	670
1以下	998	5187	6185	1001	5284	6285	942	5144	6086
計	1007	5743	6750	1035	5835	6870	959	5844	6803
最大(mSv)	2.00	7.70	7.70	3.50	8.43	8.43	3.31	10.28	10.28
平均(mSv)	0.09	0.36	0.32	0.12	0.36	0.32	0.10	0.42	0.37

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

2. 外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値（実効線量）

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の令和3年4月1日を始期とする5年間の累積線量分布の12月末（R3.4～R3.12）と1月末（R3.4～R4.1）を表2に、年度の累積線量分布の12月末（R3.4～R3.12）と1月末（R3.4～R4.1）を表3に示す。

表2 5年累積線量

区分(mSv)	R3.4～R3.12月 (2021.4～2021.12)			R3.4～R4.1月 (2021.4～2022.1)			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	1	367	368	3	516	519	2	149	151
5超え～10以下	40	782	822	49	856	905	9	74	83
1超え～5以下	175	2126	2301	178	2158	2336	3	32	35
1以下	1114	4759	5873	1110	4758	5868	-4	-1	-5
計	1330	8034	9364	1340	8288	9628	10	254	264
最大(mSv)	10.02	16.94	16.94	10.68	17.08	17.08	-	-	-
平均(mSv)	0.62	2.08	1.87	0.69	2.31	2.08	-	-	-

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※H23.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

表3 年度累積線量

区分(mSv)	R3.4～R3.12月			R3.4～R4.1月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	1	367	368	3	516	519	2	149	151
5超え～10以下	40	782	822	49	856	905	9	74	83
1超え～5以下	175	2126	2301	178	2158	2336	3	32	35
1以下	1114	4759	5873	1110	4758	5868	-4	-1	-5
計	1330	8034	9364	1340	8288	9628	10	254	264
最大(mSv)	10.02	16.94	16.94	10.68	17.08	17.08	-	-	-
平均(mSv)	0.62	2.08	1.87	0.69	2.31	2.08	-	-	-

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

3. 特定高線量作業従事者の外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値（実効線量）

特定高線量作業従事者※1の累積線量分布を表4に示す。

表4 累積線量（特定高線量作業従事者）

区分(mSv)	H23.3月～H27.9月
100超え	1
75超え～100以下	191
50超え～75以下	233
20超え～50以下	267
10超え～20以下	186
5超え～10以下	129
1超え～5以下	145
1以下	51
計	1203
最大(mSv)	102.69
平均(mSv)	36.49

（H27.10月より特定高線量作業従事者としての届出は実施していないため、H27.9月までの表として記載）

※1 特定高線量作業従事者

電離放射線障害防止規則第7条の緊急被ばく限度（100mSv）が適用されるとされている作業に従事する者。具体的には、発電所に属する原子炉施設並びに蒸気タービン及びその付属設備又はその周辺の区域であって、その線量が1時間につき0.1mSvを超えるおそれのある場所において、原子炉施設若しくは使用済燃料貯蔵槽を冷却する設備の機能を維持するための作業を行うとき又は原子炉施設の故障、破損等により多量の放射性物質の放出のおそれのある場合に、これを抑制若しくは防止するための機能を維持するための作業に従事する者を指す。

なお、これまでの特定高線量作業従事者については東電社員のみが対象者である。

※2 特定高線量作業従事者の人数は、H23.3月～H27.9月の間で、過去に1度でも特定高線量作業従事者に届出したことのある者である。

※3 A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※4 H23.3月～H27.9月の累計の最大値（100超え）は、H25.7月に実施したH23.3月の内部被ばく線量を見直したことに伴うものである。

4. 等価線量

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の過去3ヶ月の等価線量（皮膚）分布を表5に、等価線量（水晶体）分布を表6に示す。

表5 皮膚

区分(mSv)	R3.11月			R3.12月			R4.1月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
500超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
300超え～500以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
250超え～300以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
200超え～250以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
150超え～200以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	1	1	0	3	3	0	1	1
5超え～10以下	0	39	39	0	38	38	0	49	49
1超え～5以下	18	585	603	35	608	643	17	721	738
1以下	989	5118	6107	1000	5186	6186	942	5073	6015
計	1007	5743	6750	1035	5835	6870	959	5844	6803
最大(mSv)	3.00	14.45	14.45	4.42	15.40	15.40	3.31	10.28	10.28
平均(mSv)	0.10	0.41	0.37	0.13	0.42	0.38	0.10	0.45	0.40

※A PD値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、皮膚の等価線量限度は500mSv/年（緊急被ばく限度1Sv）となっている。

※皮膚の等価線量は、70μm線量当量で評価しており、胸部または腹部の他に手などの末端部の測定を行った場合は、その最大値としている。

表6 眼の水晶体

区分(mSv)	R3.11月			R3.12月			R4.1月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
150超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5超え～10以下	0	22	22	0	30	30	0	49	49
1超え～5以下	13	540	553	34	531	565	17	721	738
1以下	994	5181	6175	1001	5274	6275	942	5073	6015
計	1007	5743	6750	1035	5835	6870	959	5844	6803
最大(mSv)	2.00	9.40	9.40	3.50	8.80	8.80	3.31	10.28	10.28
平均(mSv)	0.09	0.37	0.33	0.13	0.36	0.33	0.10	0.45	0.40

※A PD値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は50mSv/年かつ、100mSv/5年（緊急被ばく限度300mSv）となっている。なお、令和3年4月1日以前の眼の水晶体の等価線量限度は150mSv/年（緊急被ばく限度300mSv）である。

※眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1cm線量当量、X・γ線およびβ線の3mm線量当量とする。ただし、X・γ線およびβ線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cmまたは70μm線量当量としている。（R3.4月より）

5. 等価線量の累積値

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の12月末（R3.4～R3.12）と1月末（R3.4～R4.1）の等価線量（皮膚）の年度累積分布の比較を表7に、12月末（R3.4～R3.12）と1月末（R3.4～R4.1）の等価線量（水晶体）の年度累積分布を表8に示す。

また、令和3年4月1日を始期とする5年間の累積線量分布の12月末（R3.4～R3.12）と1月末（R3.4～R4.1）を表9に示す。

表7 皮膚

区分(mSv)	R3.4～R3.12月			R3.4～R4.1月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
500超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
300超え～500以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
250超え～300以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
200超え～250以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
150超え～200以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	2	10	12	2	13	15	0	3	3
10超え～20以下	2	498	500	5	640	645	3	142	145
5超え～10以下	49	785	834	55	863	918	6	78	84
1超え～5以下	169	2116	2285	176	2151	2327	7	35	42
1以下	1108	4625	5733	1102	4621	5723	-6	-4	-10
計	1330	8034	9364	1340	8288	9628	10	254	264
最大(mSv)	39.11	30.20	39.11	39.21	33.94	39.21	-	-	-
平均(mSv)	0.73	2.33	2.10	0.79	2.57	2.32	-	-	-

※A PD値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、皮膚の等価線量限度は500mSv/年（緊急被ばく限度1Sv）となっている。

※皮膚の等価線量は、70μm線量当量で評価しており、胸部または腹部の他に手などの末端部の測定を行った場合は、その最大値としている。

表8 眼の水晶体

区分(mSv)	R3.4～R3.12月			R3.4～R4.1月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
150超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え～20以下	1	395	396	3	543	546	2	148	150
5超え～10以下	41	779	820	50	864	914	9	85	94
1超え～5以下	176	2114	2290	181	2167	2348	5	53	58
1以下	1112	4746	5858	1106	4714	5820	-6	-32	-38
計	1330	8034	9364	1340	8288	9628	10	254	264
最大(mSv)	10.02	17.11	17.11	10.51	17.13	17.13	-	-	-
平均(mSv)	0.64	2.11	1.90	0.70	2.36	2.13	-	-	-

※A PD値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業員）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は50mSv/年かつ、100mSv/5年（緊急被ばく限度300mSv）となっている。

※眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1cm線量当量、X・γ線およびβ線の3mm線量当量とする。

ただし、X・γ線およびβ線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cmまたは70μm線量当量としている。

表9 眼の水晶体 5年累積線量

区分(mSv)	R3.4~R3.12月 (2021.4~2021.12)			R3.4~R4.1月 (2021.4~2022.1)			増減		
	東電 社員	協力 企業	計	東電 社員	協力 企業	計	東電 社員	協力 企業	計
100超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75超え~100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え~75以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え~50以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10超え~20以下	1	395	396	3	543	546	2	148	150
5超え~10以下	41	779	820	50	864	914	9	85	94
1超え~5以下	176	2114	2290	181	2167	2348	5	53	58
1以下	1112	4746	5858	1106	4714	5820	-6	-32	-38
計	1330	8034	9364	1340	8288	9628	10	254	264
最大(mSv)	10.02	17.11	17.11	10.51	17.13	17.13	-	-	-
平均(mSv)	0.64	2.11	1.90	0.70	2.36	2.13	-	-	-

※A P D値の積算値の積算型線量計による月間線量値への置き換えや、積算型線量計のみの着用者（例：免震棟のみの作業者）の値の反映等により線量・人数が変動することがある。

※等価線量は、臓器や組織が受けた線量であり、眼の水晶体の等価線量限度は50mSv/年かつ、100mSv/5年（緊急被ばく限度300mSv）となっている。

※眼の水晶体の等価線量は、中性子線の1cm線量当量、X・γ線およびβ線の3mm線量当量とする。
ただし、X・γ線およびβ線については、放射線の種類およびエネルギーの種類等を考慮して適切と判断した場合は、1cmまたは70μm線量当量としている。

以上